

<評価の手法等>

事業名	評価項目		評価を行う過程において使用した資料等	担当部局	
	費用便益分析				
	便益	費用			
河川・ダム事業 (代替法、CVM・TCM)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定年平均被害軽減期待額</li> <li>・水質改善効果等(環境整備事業の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費</li> <li>・維持管理費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の影響</li> <li>・過去の災害実績</li> <li>・災害発生の危険度</li> <li>・地域開発の状況</li> <li>・地域の協力体制</li> <li>・河川環境等を取りまく状況 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国勢調査メッシュ統計</li> <li>・水害統計 等</li> </ul>	水管理・国土保全局
砂防事業等 (代替法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接被害軽減便益</li> <li>・人命保護便益 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費</li> <li>・維持管理費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の影響</li> <li>・過去の災害実績</li> <li>・災害発生の危険度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国勢調査メッシュ統計等</li> </ul>	水管理・国土保全局
道路・街路事業 (消費者余剰法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走行時間短縮便益</li> <li>・走行経費減少便益</li> <li>・交通事故減少便益</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費</li> <li>・維持管理費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施環境</li> <li>・物流効率化の支援</li> <li>・都市の再生</li> <li>・安全な生活環境の確保</li> <li>・救助・救援活動の支援等の防災機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路交通センサス</li> <li>・パーソントリップ調査</li> </ul>	都市局 道路局
空港整備事業(航空保安システム) (回避支出法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者(旅客)便益 (移動費用・移動時間の節約)</li> <li>・供給者(航空会社)便益 (運航経費・事務経費の節約)</li> <li>・残存価値</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設費</li> <li>・維持・施設更新費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着陸復行が減少し、空港周辺への騒音影響が軽減される。</li> <li>・乗員の精神的負荷やワークロードが軽減される。</li> <li>・旋回や、降下・上昇の繰り返し減少し、利用者の安心感が向上する。</li> <li>・運航の信頼性が向上することで、航空会社による新規路線開設や既存路線の増便が促進される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種時刻・運賃表</li> <li>・全国幹線旅客純流動調査</li> </ul>	航空局

事業名	評価の方法	評価の視点等	評価を行う過程において使用した資料等	担当部局
官庁営繕事業	評価対象事業について、右の要素ごとに、評価指標により評点方式で評価するとともに、その他の要素も含め総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画の必要性</li> <li>・事業計画の合理性</li> <li>・事業計画の効果</li> </ul>		官庁営繕部

## ※便益把握の方法

### 代替法

事業の効果の評価を、評価対象社会資本と同様な効果を有する他の市場財で、代替して供給した場合に必要とされる費用によって評価する方法。

### 消費者余剰法

事業実施によって影響を受ける消費行動に関する需要曲線を推定し、事業実施により生じる消費者余剰の変化分を求める方法。

### TCM(トラベルコスト法)

対象とする非市場財(環境資源等)を訪れて、そのレクリエーション、アメニティを利用する人々が支出する交通費などの費用と、利用のために費やす時間の機会費用を合わせた旅行費用を求めることによって、その施設によってもたらされる便益を評価する方法。

### CVM(仮想的市場評価法)

アンケート等を用いて評価対象社会資本に対する支払意思額を住民等に尋ねることで、対象とする財などの価値を金額で評価する方法。